

まなびあむ
主催
2023年度

現役世代のためのまなぶ！講座

受講者募集中

社会人のあなたにとって、これからの仕事に役立つ考え方や知識を学ぼう
—学ぶ意欲は、あなたの人生を切り拓く—

各回受講定員
24名

混沌として先行きの見通しが難しい現代の中で、現役責任世代として日々社会を支えていた
だっている皆さんが、毎日の生活の中では得られにくい理論や考え方、知識などを学んでい
ただための入門的・基礎的な講義を全9回の連続講座として開講します。物事の本質と将来を
冷静に見通すための“メガネ”としてこの講座をご活用ください。

全9回 2023年 6月～12月
各回土曜日の13時15分開講
講義時間 100～110分

受講対象者：現役世代向けの講座ですが、どなたでも受講いただけます
(年齢・居住地等の制限はありません)

講座会場：
まなびあむ

受講したい個々の講義
だけ受講できます

講義日程	講義テーマ	講師名
6月3日 済	自分を成長させる社会人の読書法・知識習得法	佐野 泰之氏 立命館大学
6月24日 済	若手の離職を防ぐための コミュニケーションのあり方を考える	家島 明彦氏 大阪大学
7月22日 済	満足度の高い会議にしていこう —ファシリテーションのスキルを磨こう—	水江 泰資氏 プロファシリテーター
8月26日	世間に恥ずかしくない職場風土づくりのための部下の勇気と 気概 —リーダーシップ偏重型組織からフォロワーシップ型組織へ—	松山 一紀氏 同志社大学
9月16日	知的財産法の基礎の基礎、そして最新事情 —社会人としてこれだけは知っておきたい知財のこと—	青木 大也氏 大阪大学
9月30日	社会人のための経済安全保障入門 —私たちの仕事にどう関わってくるのか—	土屋 貴裕氏 京都先端科学大学
11月11日	社会人のためのゲーム理論 超入門講座 —ゲーム理論を使うと社会問題の見え方が変わる—	森谷 文利氏 神戸市外国語大学
11月25日	リモート時代の若手育成を考える —働きがいを実感できる人事制度・職場環境づくり—	江夏 幾多郎氏 神戸大学
12月16日	社会人のための法務リスク管理入門 —これからのシン常識「ガバナンスコード」への対応—	山田 泰弘氏 立命館大学

受講料 (当日払)

右の方以外の方

新採者、30歳未満の方

700円

500円

講義終了後、時間があれば、講師と受講
者のざっくばらんな懇談会を開催します。

(注)「新採者」は、現在の事業所に採用されて3年以内の方。「30歳未満」は、令和5年12月末時点で30歳未満の方。社員証・運転免許証等の提示をお願いすることがあります。

受講のお申込み

右のQRコードを読み取り、申込フォームに必要事項を入力し送信してください。

■ 準備の都合上、講義日の一週間前までに申し込んでください。

★申込フォーム送信後に受付完了メール等が確実に受信できるよう、受信環境の確保をお願いします。



主催：舞鶴市多世代交流施設まなびあむ

舞鶴市溝尻150-11、☎0773-64-4060、FAX0773-64-4064

お問合せは、火曜日～土曜日の8時30分～17時15分をお願いします。

講義日程及び講師、講義内容は、講師のご都合その他の事情により変更する場合がありますのでご了承ください。舞鶴市ホームページによるお知らせにご注意ください。

■講義の趣旨

社会人として働き始めると、学び方や読書法などはなかなか教えてもらえないものです。

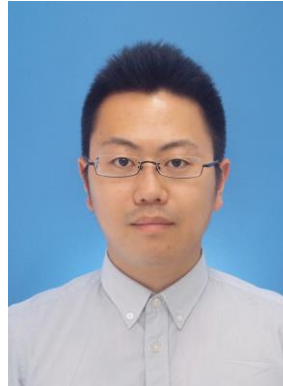
でも、働き始めてからこそ、生きていくうえで必要な学びが本当に求められると痛感することが多いのではないのでしょうか。この講義では、自分を成長させる自らの学びのための方法について、哲学的思考の助けを借りて学びます。

●講師からのメッセージ

「自分を成長させる」とはどういうことでしょうか？ 知らなかったことを知り、わからなかったことがわかるようになることでしょうか？

哲学的思考が提示するのは、このような成長観とはある意味で真逆の成長観で、むしろ「わからない」が増えていくような思考です。しかし、「わからない」と向き合い、それを受け入れることこそが、より深い意味での「知性」ではないのでしょうか？ この講義では、「自分の理解を超える本」を読むための心構えやテクニックを紹介しながら、そのような意味での知性を磨く方法について考えます。

佐野 泰之 (さの やすゆき) 氏
立命館大学 文学部 非常勤講師



京都大学総合人間学部、同大学院人間・環境学研究科。専門：哲学、倫理学、現象学外
著書：『身体の黒魔術、言語の白魔術——メルロ＝ポンティにおける言語と実存』。共著：『今からはじめる哲学入門』『メルロ＝ポンティ読本』『〈京大発〉専門分野の越え方——対話から生まれる学際探求』など。

6月24日 若手の離職を防ぐためのコミュニケーションのあり方を考える

■講義の趣旨

「人手不足の中での若手社員（職員）の離職を防ぎたい。」＝これはどの職場にも共通する切実な願いです。

離職の動機は様々であり、その対策は一様ではありませんが、この講義では、若手のモチベーションを上げるための職場でのコミュニケーションのあり方に焦点を当てて、離職を防止する方策について考えます。

●講師からのメッセージ

人の性格は十人十色。対人関係や部下指導に「こうしておけば大丈夫」といった伝家の宝刀は存在せず、基本的には一人ひとりに合わせた個別対応をする必要があります。一方で、基本的な知識を得ておくことも大事です。昔から「彼を知り己を知れば、百戦殆うからず」と言います。心理テストで自他の性格や好むコミュニケーションスタイルについて学んでみましょう。

家島 明彦 (いえしま あきひこ) 氏
大阪大学キャリアセンター副センター長／准教授



大阪大学人間科学部、京都大学大学院教育学研究科。専門：生涯発達心理学、キャリア教育学。日本心理学会人事心理学研究会代表。パナソニックの人事で客員研究員も務める。研究テーマ：青年の理想自己形成における他者/メディアからの影響。公認心理師(国家資格)、キャリア・カウンセラー、島根県ふるさと親善大使「遣島使」、松江観光大使、俳優など様々な資格と肩書を持つ。

7月22日 満足度の高い会議にしていくために～ファシリテーションのスキルを磨こう～

■講義の趣旨 あなたの勤め先での会議はどうですか？「こんな会議、意味ない！」と感じてしまうときが何と多いことでしょうか。

そんなとき、会議やミーティングを円滑に進める技術「ファシリテーション」のスキルを持っていると、問題点を整理し、参加者の認識の明確化や合意形成がしやすくなります。意味ある会議にするための極意を学びましょう。

●講師からのメッセージ

「決まった人だけがしゃべる」「意見がうまくまとまらない」「決まったのに実行しない」このような会議にしないためのスキルがファシリテーションです。

「うちの会議、なんとかしたい！」という危機感、改善意欲をお持ちの方のご参加をお待ちしています。4つのスキルを身に付け、職場に劇的な変化をもたらしましょう。

水江 泰資(みづえ ひろよし)氏
プロフェッショナルファシリテーター



1992年(平成4年)、社団法人日本能率協会(通称JMA)に入職。大型展示会とシンポジウムの企画運営および教育事業に従事し2009年に独立。その後、国際ファシリテーター協会(IAF)認定プロフェッショナルファシリテーターとして、民間、行政、教育機関に出講。さまざまな組織の改善活動に携わっている

8月26日 世間に恥ずかしくない職場風土づくりのための部下の勇気と気概 ーリーダーシップ偏重型組織からフォロワーシップ型組織へー

■講義の趣旨

会社や役所で不祥事や不正事案の発生が後を絶ちません。表面化しないまでも、どの事業所でも何らかの好ましくない事案の火種があり、経営層だけでなく、そこで働く人たちが＝フォロワーがどう対応するののかも、問われています。

この講義では、働きやすく社会の期待に応えていけるような職場の風土へ変えていくうえでの「フォロワーシップ型組織」が有する意義について学ぶとともに、部下＝フォロワーが勇気と気概を持って、“建設的なNo”を言える職場にしていくための方策をともに考えます。

●講師からのメッセージ

皆さん、フォロワーシップの世界へようこそ！

フォロワーシップ行動が生じるプロセスについて理解を深め、健全なフォロワーシップを発揮するために必要なことは何なのか、一緒に考えましょう！

松山 一紀 (まつやま かずき) 氏 同志社大学 社会学部 教授



京都大学教育学部、同大学院経済学研究科。

専門：組織行動論、戦略的人的資源管理論。

個人の多様性尊重の観点から、これからは組織構成員の主体的貢献性による健全な帰属意識が必要であるとして、リーダーシップ偏重型組織からフォロワーシップ型組織の普及を提唱。

主な著書：『フォロワーシップ行動論：「こと・ば」と言葉』

9月16日 知的財産法の基礎の基礎、そして最新事情 ー社会人としてこれだけは知っておきたい知財のことー

■講義の趣旨

企業や役所が事業を行ううえで、特許権や著作権などの知的財産権を侵害しないようにするだけでなく、うまく活用する知恵がますます求められています。

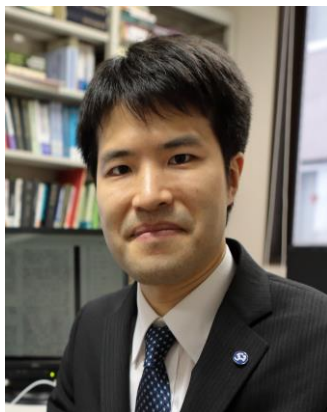
知的財産法の基礎的な考え方や最新動向、また私たちが日々の仕事や生活の上で注意すべき点などを、事例とともに知財法の専門家から学びます。

●講師からのメッセージ

知的財産法は特許法や著作権法といった複数の法律の総称です。いずれも複雑で、正確な判断や運用は専門家でも難しいものですが、一方で非常に身近なものでもあります。

その全てを扱うことはできませんが、直面しやすい話題を事例ベースでいくつかご紹介し、知的財産法のイメージをお伝えしたいと思います。

青木 大也 (あおき ひろや) 氏 大阪大学大学院 法学研究科 准教授



東京大学法学部卒、同大学院法学政治科学研究科法曹養成専攻修了。専門：著作権法、特許法、意匠法 外VR（バーチャルリアリティ）空間のデザインやパロディ表現など、デジタル時代における知的財産の保護と活用のバランスのとれた法制度のあり方について幅広く研究し問題提起・発信。

著書（分担執筆）：『リーガルクエスト 知的財産法』『図録知的財産法』『知的財産法入門』『知財判例コレクション』他

9月30日 社会人のための経済安全保障入門 ー私たちの仕事にどう関わってくるのかー

■講義の趣旨

経済安全保障推進法が制定され、経済安全保障に関する制度の整備が進んでいますが、それらは私たちの事業や生活にどのように関わってくるのでしょうか。

経済安全保障の制度・仕組みの基本的事項について理解し、私たちが仕事をしていくうえで、どのような関わりがあり、どう対応していけばよいのか、考えます。

●講師からのメッセージ

国際情勢が複雑化するなか、日本の経済安全保障や産業競争力の維持・強化、また京都の商工業の振興と地域社会の発展のためにも、新興・先端技術を守り、育てることの重要性が増しています。

本講義がご理解ご留意の一助となれば幸いです。

土屋 貴裕 (つちや たかひろ) 氏 京都先端科学大学 経済経営学部 准教授



防衛大学校総合安全保障研究科後期課程卒業。博士（安全保障学）。外務省専門分析員、在香港日本国総領事館専門調査員などを経て現職。著書に『米中の経済安全保障戦略：新興技術をめぐる新たな競争』（共著）、『習近平の軍事戦略：「強軍の夢」は実現するか』（共著）ほか多数。

11月11日

社会人のためのゲーム理論 超入門講座 ーゲーム理論を使うと社会問題の見え方が変わるー

■講義の趣旨

ゲーム理論の“ゲーム”とは、テレビゲームのゲームではなく、互いに行動を読みあわなければならない状況で、最適な意思決定や行動を探るための考え方を言います。

この講義では、今や現代のビジネスパーソンに欠かせない必須知識となったゲーム理論について、わかりやすい解説と、社会問題の分析を通じてその基礎を学びます。

●講師からのメッセージ

ゲーム理論は人と人の“駆け引き”を理解するためのもので、この分野から多くのノーベル経済学賞受賞者が生まれました。

本講義では、有力な分析ツールである「ゲーム理論」を学習し、ゲーム理論をビジネスに「活かす」方法を考えていきます。

森谷 文利（もりや ふみとし）氏
神戸市外国語大学 外国語学部 准教授



大阪大学経済学部卒、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了、博士(商学)。一橋大学商学研究科特任講師などを経て2013年4月より現職。

専門:ゲーム理論, 契約理論, 組織の経済学。
主な著作に、『活かすゲーム理論』(有斐閣、共著、2023)

11月25日

リモート時代の若手育成を考える ー働きがいを実感できる人事制度・職場環境づくりー

■講義の趣旨

労働時間の短縮化やリモートワークの導入などによって、“働きやすい”職場が増えましたが、“働きがい”が増えたとはい切れません。

この講義では、転職や独立が当り前の選択肢になった時代において、どうすれば、若手人材が、“働きがい”を感じられ、成長実感を得ていけるような人材育成ができるのか、という問題意識のもと、これからの人事制度や人事評価のあり方について学びます。

●講師からのメッセージ

人事評価に限らず、日々の感謝やアドバイスなど、上司や同僚などからの評価は、人々の働きがいを高めも低めもします。若手の場合には特にそうでしょう。

仕事環境が変化する中での、評価の良い側面の活かし方について、皆さんと一緒に考えたいと思っています。

江夏 幾多郎（えなつ いくたろう）氏
神戸大学 経済経営研究所 准教授



一橋大学商学部卒業。博士(商学)。専門:人的資源管理論, 雇用システム論。現在の研究関心は、「公正な処遇」を可能にする制度設計と現場の運用, 人事管理における実務界と研究界の関心の相違, 人事管理の実務の改善に資する研究者の臨床的関与のあり方など。主著に、『人事評価における「曖昧」と「納得」』、『人事管理』、『コロナショックと就労』。日本労務学会会長。

12月16日

社会人のための法務リスク管理入門 ーこれからのシン常識「ガバナンスコード」への対応ー

■講義の趣旨

事業活動の法務リスクは、VUCA (Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性))の時代の新しいニーズへの対応をする中で、予測が難しくなります。その管理の指針として「ガバナンスコード」が有用です。最近の事例から、ガバナンスコードへの対応について学びます。

●講師からのメッセージ

ガバナンスコードは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のための企業の自律的な対応を行うための行動指針を「原則」として定めたもので、株主、従業員、地域社会、顧客などの立場を踏まえて、企業が透明・公正かつ迅速な意思決定を行うための仕組みを示しています。汎用性のある考え方であり、様々な組織のあり方の基本と意識されていますので、そのあり方を一緒に学んでみましょう。

山田 泰弘（やまだ よしひろ）氏
立命館大学 法学部 教授



名古屋大学法学部卒、同大学院法学研究科修了
専門:会社法・商法。違法行為を抑止する観点や株主間の利害対立の調整の観点から経営者の責任追及制度を主として研究。著書:『会社法の選択-新しい社会の会社法を求めて』(共著・商事法務、2010年)、『新 実務家のための税務相談(会社法編)』(編著・第2版、有斐閣、2020年)など。